

PHD LETTER

51

PEACE・HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT 1994・6

- 頑張るパプア・ニューギニア研修生..... 3P
- 11、12期研修生レポート..... 4・5P

PHD運動とは1962年より約20年間、ネパール、東南アジアを中心とした発展途上国で医療活動に従事した岩村昇博士の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和づくり(Peace)健康づくり(Health)を担う人材をつくる(Human Development)運動を世界中にひろめることを目的として、1981年からはじまりました。

発行:財団法人PHD協会
 編集人:草地賢一
 住所:〒650神戸市中央区元町通5-4-3 元町アーバンライフ202
 TEL(078)351-4892 FAX(078)351-4867
 郵便振替:01110-6-29688 財団法人ピー・エイチ・ディー協会
 定価:100円



(ソロモン、マライタ島バライで)

野良仕事帰りのお母さん
 マキと今夜のオカズの野菜を背負って山道を下ってきた
 荷物をくるんでいるのはハワーという木の葉っぱ
 これが便利、敷物や雨合羽にも
 傷んで捨てても土に還る
 手に入れるのにお金もいらない
 こんな知恵は大切に

「着々と実をむすぶ」

草の根の人々を訪ねて Report from Asia and South Pacific

「継続は力なり、という実感が今回の韓国訪問で湧きました。慶尚南道、居昌では数年前から活動を開始した嶺南農村開発院と連携する居昌YMCA、そして過去の交流に参加された農民が少しずつまとまり、私達の研修生を受け入れ、きめの細かい学びを用意して下さいました。

忠清南道の洪城では、韓国交流の中心拠点であるプルム農業高等技術学校を中心とする交流、またその卒業生が進めているソウルとの産消提携運動など、一連の有機農業運動を担う「正農会」との交流。これに加えて地元の洪城YMCA、週刊洪城というジャーナリズムが今までよりも緊密に連携して交流に取り組んで下さいました。6年を経た交流が東南アジア、南太平洋の青年を媒介にし、日本と韓国の農民の出会いを深めています。そしてそれが研修生とそれに関わる双方の農民の力になりつつあります。この実感を得て雪の韓国から猛暑のタイに飛びたちました。

タイでの仕事は以下の三点でした。
①地元のNGOからの依頼に応じてチェンマイの日本人有機農業専門家による短期農業研修の調整、②ボックオ村フォローアップとして実施したチャラムサク君の短期研修(産消提携運動)評価、③ブリチャー君のリフレッシュコース(第二次)の確認と送り出し機関であるTKBC(タイカレンバプテスト会議)幹部職員との今後の交流についての懇談。

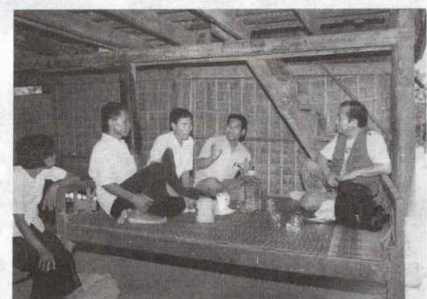
いずれもそれぞれに前段階がありましたので基本的にはスムーズに調整ができたように思います。いずれこれらが実現する段階で皆様には報告ができると思います。

チェンマイ滞在中に聞いた話で気になることを報告します。それは気象の異常が極まってきているのではないかとことです。少なくとも100年近くの近代史の中で経験の無かった超乾期の三月下旬に1週間にわたる豪雨が続いたとのことでした。このニュースは、その後訪れたカンボジアでも聞きました。

4月4日午後、炎暑のポチェントン空港に同日の午前便で帰国していたソコム、ヴァナ両君の「アツイ、アツイ！」という言葉で迎えられました。温度はほぼ40度、足のスネから汗が出る程です。

約1週間の滞在中にやらねばならぬことはただひとつ。ソコム君の現場復帰に際して、日本での有機農業研修が活きるように、農業改良普及所およびその上部機関である農林水産省農業生産局長との折衝。それと関連して農業生産局の実質的なサポーターであるスイスのNGO、HEKS(スイス教会合同援助機関)との連携、近代農業による大規模な援助を進める日本の政府機関JICA(国際協力事業団)からの情報入手。更にさまざまな背景の整理を慎重に行いながら、それらの諸機関、団体との折衝をしました。結論は嬉しい方向でまとまりました。

今迄通りソコム君はタケオ県パティエ郡の農村(ヴァナ君のチョンボク村を含む)を回り、有機農業による堆肥づくりやそのための循環農業の紹介をする。また普及所の中にその見本を作るということでした。しかもひょっとしたらHEKSの支援を得て、ヴァナ君がパートタイムのアシスタントとしてソコム君の見本づくりを手伝うことになるかもしれません。勿論中心は彼の田んぼ、畑におくことが前提ですが。



ソコム君の両親に日本の様子説明するソコム君。ソコム君の自宅。

この方向が出たのは昨年大きな不安と注目をあびた日本政府の一億円にのぼる農業、化学肥料を中心とする緊急無償援助に対するカンボジアと日本のNGOによるアピール、またカンボジア政府内部にある懸念が底流にあったのではないかとされます。

二人の嬉しそうな笑顔に送られて春の伊丹に帰ってきたのは4月14日でした。

総主事 草地賢一

アジアの風便り

ティンアンウィン (10期、ビルマ、男性)

私は日本へ行く前思いましたのは日本へ行っていろいろなお金やものや援助をたくさん持って帰ればとてもいいですよ。えらいの人になりたいでした。(中略)日本から本やお金(協会から支給された生活費をためた分)や援助を持って帰りました。私たちの国には日本へ行って働いている人いっぱいいるから日本から帰った人はすぐお金持ちになるとみんな思っています。



私とおくさんがうえているはくさいです。

日本から帰った私をお金持ちに見たら困りますね。PHDの研修生はお金持ちではありません。私はみんなに分かち合ったものやお金が少ないよ。「なぜもっといっぱい持ってこれないよ」いろいろいいました。残念ですね。これは貧しい国、貧しい人々、貧しい社会のことと思います。

だからこういうことを日本のボランティアにゆってどういうふうにしましょうか、が私たちの仕事ですね。貧しい人々にはお金や物はあります。お金持ちにはあげる物やお金あります。貧しい人々の心とお金持ちの心を悪くしないようにお金や物を分かち合うのは大事です。これを一緒に考えましょう。みんなの手を合わせて頑張りましょう。世界平和のためお祈りしましょう。(後略)

さようなら
ティンアンウィン
ビルマ。

()内は編集部注。原文はすべて平仮名でしたので漢字にしています。

具体化する日本での学び

バプアニューギニア 帰国研修生レポート

2月、3月に藤野、小松の2人の職員が相次いでバプアニューギニア(以下PNG)を訪ねました。PNGからは89年より研修生の受入れを行ってきており、既に4人が帰国し、それぞれの現場で頑張っています。その推薦団体Lutheran Development Service(LDS)と各研修生の活動ぶりを報告します。

PNGにおいてキリスト教会組織は、単に布教活動だけにとどまらず、学校、病院、地域開発、生活改善など広く社会活動に影響を及ぼしており、中でも福音ルーテル教会は旧独領において幅広い活動を展開し、その中の地域開発担当部門LDSとPHD協会は数年にわたり協力関係にあります。

本部はレイにあり4つの支部があります。活動の目的は、総合的な人間形成に 있습니다。具体的な活動は、1 地域における農・漁業訓練とその普及活動 2 地方における社会基盤整備と適性技術の向上 3 環境保全とその教育 4 識字です。

バプア・ニューギニア



トニー・ヨークさん (7期生・89年度)

LDSの職員を続けており、奥さんも同じ団体のワーカーで、一家あげてシンブー州のカリムイの村に赴任し、1 地域組織化 2 女性対象の活動 3 農業振興 4 周辺地域への巡回啓蒙活動を行っています。

ヘルペ・ヨーワさん (8期生・90年度)

フィンシャーフエン、ヘルスバックのLDSのセンターの活動をまとめるとともに、農業の指導を行っています。村人による村づくりをサポートしています。日本での研修で役立っていることを聞くと、1 淡水魚養殖 2 発電機、揚水ポンプ、除草機等のメンテナンス 3 堆肥 4 稲作 5 養鶏などであると答えが返



ヘルペさんの指導のもと、村人の取組んでいる鯉の養殖池。



早くもエピソード…元気な12期生(滞在家庭先で)



トウトウンさん (古川弘志さん宅・神戸市)

細いカラダで意外に大メシ食らいのトウトウンさん。お家で朝も晩もゴハンをモリモリ。一時のコメ不足騒動が落ち着いてから良かったと、胸をなでおろす研修担当職員。おナカこわすなー。



ラディアエリタさん (川本恭代さん宅・神戸市)

村でも日本語を教わってきましたが、学校の日本語研修が始まって数日の上達ぶりにお家のひとはびっくり。お家で用意してくれたきれいなパジャマを部屋着と思って、昼間に着てしまったとか。

ってきました。将来は出身の村に帰り、周囲の村人へのモデル農場となる自給自足生活を計画しているとのこと。

ラニー・サイロンさん (9期生・91年度)

ヘルスバックから北へ30kmのワンドカイ村に住み、基本的に自給自足の農業を父、弟と彼女が中心でやっています。

近くに住むLDS農業研修コースの同窓生アンビさんと協力して村の女性を対象にした村の生活改善に取り組んでいます。

日本での研修を活かして、昨年3~5月に裁縫教室を行い、12人の参加があり成果が上がっています。自分たちで服を作り、販売し、村の女性グループの収入としています。続いて保健講習も企画したもののこちらは村人の反応が今ひとつでどう働きかけるか思案中。第2期洋裁教室を4月から予定しているとのこと。

レル・サパさん (8期生・90年度)

ラニーさんの村から更に街道を6km北に行ったワリガイ村に帰り、4反の畑で、LDSの研修および日本での研修を活かし土地を多角的に活用した農業を展開しています。一緒にここで作業する彼の一族にまず彼の考え方、やり方が伝わります。彼の畑は街道沿いにあるので、行き交う村人の目にも触れやすく、多くの人がこの農場を訪ねてきます。野菜、果樹に養鶏、養豚が今の仕事ですが、将来、淡水魚、パン焼き、炭焼きに取組みたいと意欲的。



ルーク・スイファシアさん (齊藤豊美さん宅・神戸市)

南太平洋の島からきた彼。ホームステイ先が人工の島(ポートアイランド)と聞いてびっくり。エスカレーター、自動改札口にまたまたびっくり。お家では洗い物を手伝う孝行息子。

「有機農業の大切さ」を土産に

第11期研修生帰国

昨年5月より研修を続けてきた第11期生4名は4月上旬に、元気に帰国しました。1年間にわたり、農業・保健衛生を中心とした様々な研修で、第11期生は何を学んだのでしょうか。

釜ヶ崎地区(大阪市西成区・釜ヶ崎キリスト教協友会)～保田茂氏(神戸大学)～兵庫県農業協同組合中央会(神戸市)～本野一郎氏(神戸市西農業協同組合)～淡路島モンキーセンター(兵庫・洲本市)～兵庫県内研修旅行～明石協同歯科(兵庫・明石市)～韓国地域組織化研修(トゥンティン、ムームーのみ)～ソウルから帰国(スム・ソコム、ノップ・ヴァナは大阪から)

この一年間の学びの中で研修生が口をそろえて言うのは、有機農業が何故大切なのかということが理解できたということです。

つまり有機農業は安全な食糧を生産するための目的だけで行われるのではなく、自然の循環を考慮した上で行われるものなので、環境・生態系を守ることに直接つながり、そして自分たちの主体的・持続的な生活向上(健康・経済的側面から)に必要であるということです。

特にソコムさんは、この点を強調していました。渡辺吾吾さん(兵庫県・丹南町/有機農業)からいただいた「農業の終着駅は人間」という図解資料(別掲)を示しながら換金作物のことだけに偏重していると、その弊害が結局人間にくること、水保での経験から日先の利益追求に偏った工業化による「発展」が人間の生命・権利を奪っていたことを関連させて事あるごとに訴えていました。

国内研修の最後に訪問した釜ヶ崎では、薄田昇さん(釜ヶ崎キリスト教協友会)から日本の経済発展の中で捨てられていく人々の話を聞きながら、「自分の村・農業・自然を大切にすることが、人間が人間を大切にすることのために大切なことと分かった」とビルマの2人が話していました。

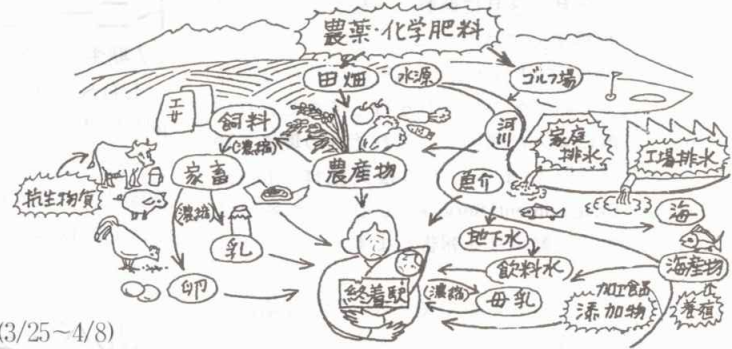
韓国地域組織化研修(3/25～4/8)
慶尚南道居昌郡～忠清南道洪城郡

現在、カンボジアの人には韓国の入国ビザがおりないため、トゥンティンさん、ムームーさんが訪問しました。また広岡正人さん(兵庫・福崎町)と中野康子さん(兵庫・春日町)の農業研修指導者のおふたりが同行されました。

この研修では、既に日本で本野一郎さんから協同組合の理念とその運営について詳しく学んだこと、東/西日本研修旅行で多くのグループ活動に接してきたことをふまえ、上記2つの農村で行われている組合運動(地域組織化)を通じて日本で学んだ農業、保健衛生の知識と技術を出身地域に展開していく際の方法・工夫を学びました。



洪城郡のイチゴ農家に。



居昌では、キリスト教教会々員が中心となって取り組む畜産組合が興味深い活動をしていました。ここでは、国内牛の飼育から消費の全過程を組合員が主体的に運営しており、生産現場と直営店を訪問しました。

洪城でも、ブルムー農業高等技術学校と正農会が中心となって取り組む生活協同組合、信用組合、幼稚園など多くの実践を学びました。同地域では、政府の工業的農業政策に対して有機農業を中心に組合運動、地域組織化を地道に進めています。

その中で、資金繰り、運営方法において一部の人だけが行うのではなく、地域の人々(農民)が組合、幼稚園等を通じて村全体の生活改善に主体的に、直接に参加していることに、研修生は驚きつつ、感心していました。

最終日の評価会ではトゥンティンさん、ムームーさんは、「日本であまり見ることでできなかった農民の直接的参加による組合、村づくりを最後に見ることができ、良かった」と語っていました。

この一年間も本当に多くの方々にご指導、ご協力をいただき心より感謝申し上げます。

ラディアエリタさん

(インドネシア) Radiaelita

ラディアエリタ(愛称ラッド)さんは12人兄弟の4番目。出身村アイルバンギスからは、4人目の研修生(初めての女性)として来日しました。第10期生のハスマヤニさんから、来日前に日本語を学んできたように、今のところ一番上手に話しています。

アイルバンギス村は、西スマトラ州の州都パダンから約270kmの距離にある漁村。かなり大きな村で、約13,000人が生活しており、男性のほとんどは漁業に従事しています。子



日本での研修に夢... 第12期研修生

今年度は3ヵ国3人という全て異なる国々からの来日となり、日本語研修が始まるまでの研修生同士のコミュニケーションは楽ではありませんでした。現在は、日本語研修も順調に進んでいるようで、研修生もリラックスしてきています。

ルーク・スイファシアさん

(ソロモン諸島国) Luke Suifasia

ルークさんは、5人兄弟の末っ子で両親を早くに亡くしています。高校を卒業してから村に戻り農業のかたわら村の生活改善ワーカーとして働いています。

ソロモンは南太平洋の島国で首都はガダルカナル島のホニアラです。ルークさんのアノナキナキ村は、このホニアラから船で6時間のマライタ島にあり、島の大きな町であるアウキから南へ約30kmのところにあります。

人口は200人、40世帯で構成される小さな農村です。農産物としては、さつま芋、キャッサバ、ヤム芋、バナナ、パパイヤ、パイナップル、豆、砂糖きび等がありますが、ほとんどは自給用のために栽培されており、余剰分が換金されています。村の人はこの収入で

供の数は、5～7人が普通で、男女ともに20歳前後で結婚するそうです。

漁師としての収入は、漁獲高により異なりますが、1日5,000～20,000ルピアが目安となります。これに対して、普通の家族が生活していくのに要する経費は週に35,000ルピア程度です。

村の中に小学校、中学校、高等学校があり、小中学校には村人のほとんどが進学しますが、高等学校になると40%ぐらいとなります。

健康管理の状況を見てみると、トイレを備えている家庭は少なく、普通は川端に設置された公衆トイレを利用します。飲料水は山の清水を村のモスク(イスラム寺院)までひいており、また料理には井戸の水も使います。衛生環境や栄養バランスが悪いためにおこる病気が多く、また村の人の保健衛生の知識も十分ではありません。小さな診療所が村の中にありますが、重い病気には完全な対応ができないために、パダンの病院までいかなければなりません。しかし、諸経費が高額となるために多くの村人は、村の診療所で済ませてしまいます。

このような状況から、ラッドさんは栄養、衛生改善のために、保健衛生を学びますが、特に子供の健康管理について関心を持っています。同時に、女性の現金収入の向上を考えて洋裁、ししゅう等も学んでいきます。

アイルバンギス村の魚市場。

塩、米、缶詰、石鹸、灯油、衣類等を購入していますが、村ではほとんど現金を必要としない自給自足の生活が営まれています。

農業形態は、2年ごとに移動していく焼き畑農業です。焼き畑農業ではまず木を伐採し、用地を確保してから雑草を焼き払い整地して耕作をします。しかし人口が増加し、このやり方では生産が追いつかなくなってきています。定着しての農法はこれからです。

村というより、ソロモンでの大きな問題として挙げられるのはマラリアです。他に消化器系、呼吸器系疾患、皮膚病が多く、治療は隣村の診療所に行きます。

ルークさんは日本における研修で、土地を有効に活用するための技術、例えば輪作、混作、堆肥のつくり方を中心に学んでいきます。



ルークさんの村の一般的な家屋。

トゥントウンさん

(ビルマ) တွံတူဝှ်း

トゥントウンさんは、ウィンさん(10期)、トゥンティンさん、ムームーさん(11期)に次いでビルマから4人目の研修生。例年のごとく、ビルマの研修生は陽気です。トゥンティンさんと同じように、ウィンさんの私塾で学んだうちの一人で、村で初めて大学の入学試験に合格した努力家です。現在は、家族とともに農業をしていますが、将来は村の生活改善の仕事に取り組んでいきたいとの意欲を持っています。

トゥントウンさんのミヤウタダインシェ村は、ビルマ第2の町マンダレーから東へ約20kmの距離にある農村です。農民のほとんどは土地を所有しない小作農で、地主から土地を借り少ない収入で生活しています。

現在の農業における問題は、農業用水、高額な農業投資による借金だとのことです。まず、農業用水については村の近くを流れる灌漑水路から引いていますが、行政管理が全く機能していないようで、必要な時に水がなくて、不必要な時に大量の水が流れてくるそうです。知らないうちに畑に水が流れ込み、作物が全滅してしまうこともあったようです。上手に利用するには、役人に賄賂を払うしかないとのこと。苦しい農業を強いられていることが分かります。

また、多くの農民は農業・化学肥料に関心



ビルマの食卓風景。

がありますが、それが非常に高価で借金のもとになったり品不足で入手が難しくなったりするそうです。さらに農業、化学肥料の使用に伴う害についての情報は届いていません。

トゥントウンさんは農業だけではなく、村のための図書館の運営にも携わっています。これは、ウィンさんがつくったものですが、現在は村の若者が主体的にその運営に取り組む、トゥントウンさんは図書館の配達を担当しています。

経済、宗教、応急手当に関する本が多いようですが、多くの制約があるために他の種類の本はおくことができないのが現状です。

トゥントウンさんは、来日前にウィンさん、そして帰国直後のトゥンティンさん、ムームーさんから日本での研修について相談し、養鶏、有畜複合農業の技術をしっかりと学んでくるようにとリクエストを受け、本人もやる気満々です。

前号でご紹介していたパプアニューギニアからのネア・ノレウエさんの研修は家族の都合により残念ながら取りやめになりました。現在短期研修生の追加を検討しています。

短期研修生の紹介

プリチャー・ムアンチャンさん

(タイ) ปรีชา มานจันทร์
第3期生として(1985～1986)、日本で農業技術を学んだプリチャー・ムアンチャンさん(タイ)が、リフレッシュャーコースの研修生として5月に来日しました。

研修テーマは、産消提携運動の組織と運営方法を主に、村の布グループの活動を向上させることもあわせ、7月下旬までの予定で研修を実施します。

プリチャーさんは、日本から戻り、チェンマイから北西約150kmはなれたムシキー村のザハミット小中学校の教師として農業を教えながら村の生活改善のためにも努力してきました。その活動の中で女性が中心に取り組む布のグループがうみだされ、彼が日本へのつなぎ役をしています。一方で、「ムシキー農業センター」を村人とともに昨年からはスタートさせ、ここで生産から流通までの過程をつくりあげたいと考えています。ここでの活動のために、産消提携運動を生産者と消費者の両方から学び、その組織化を参考にしたいとのことから今回の研修となりました。

帰国後既に9年が経過しているにもかかわらず、流暢な日本語を話しているプリチャーさんですが、ひさしぶりの神戸を見てその変貌ぶりに驚いています。

11期生の帰国後の抱負

トゥンティンさん

私が一方的に教えるのではなく、まず日本で学んだ有機農業の技術をやってみて、村の人に私の畑を見に来てもらいたいです。それから次の行動を考えたいです。

ムームーさん

まずは、衛生改善です。保育所に、ポスター、壁新聞を貼る等みんなの目につくようにして、興味、関心を持つ人が出てきてから、具体的な説明にはいっていきたくたいです。

スム・ソコムさん

有機農業の技術とその考え方を広めたい。私は農業改良普及員なので、いくつかの農村を回って話をしていきます。

同時に、農業だけじゃなくて生活上の問題をみつけるために農作業日誌のように記録を付けることを勧めたいと思います。

ノップ・ヴァナさん

はじめに堆肥をつくりたい。ソコムさんと協力して村の人に伝えていきたいです。私にも有機農業が大切なことが分かったので時間はかかっても村のみんなも分かってくれると思います。



編集後記

今回のPHDレターはいかがでしたでしょうか？今年の研修生も無事日本に着き、日本語の勉強に励んでいます。私も少し話をしましたがPHDの研修生らしく、目が輝いており学習意欲も十二分にみうけられました。

さて、今号から英語ページも隔号の予定でスタート。私も少しお手伝いをさせていただきました。紙面を通じて皆さんとコミュニケーションができればと思います。

この編集を通じていろいろ考えることができました。例えば1つの文を書くにも、見えない読者を想定して書かなくてはなりません。それは私にとっては社会を見る1つの窓にもなってくれます。私は今春から社会人になり、環境もがらりと変わりましたが、学生時代か

らかかわらせてもらったPHDの事務所に行くとなんだかとてもホッとするような気がします。初めて訪ねた時の居心地の悪さが信じられない位です。これからも皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

柳口 未来

〈編集メンバー〉

浅田大輔、安藤万由、飯塚節、石坂典明、上原真理、鬼塚二三子、柿原登志夫、覚張浩永、児島章一、児島千鶴子、小林優子、篠原登子、中西建司、藤木寿乃、松波めぐみ、柳口未来、米山美加、Elaine Abrams

新規会員・寄付者ご芳名は、
個人情報保護のため
掲載しておりません。

We are happy to be able to send a summarized English version PHD newsletter to former trainees, our counterpart organization, and our supporters who understand English better than Japanese. It would be better if we could publish news letters in all the languages our trainees use, though, it is difficult at this moment, as the languages are more than 10.

We are waiting for your response to this very first English newsletter!

WHAT IS PHD?

The PHD Foundation has been promoting activities to help bring about Peace and Health among grass roots people in Asian and South Pacific countries through Human Development.

PHD was advocated and initiated by Dr. Noboru Iwamura, who participated in a Medical mission for about 20 years mainly in Nepal. "Living is Sharing" is our motto, which Dr. Iwamura learned from grass roots people

through his service.

PHD Training programs offer practical experience in agriculture, fisheries, primary health care, leadership and community organizing in Japan for 1 year including short term visits to other feasible countries.

Also, we believe that to meet people from the 'Third World' through activities supporting PHD will help people of 'Developed countries' acknowledge and understand the need for reconsideration and change of their lifestyle to build a world in which 'Living is Sharing'.

Visiting Grass Roots People

My first impression of the Micronesians was that they cooperated with each other despite long distances between islands. For example, they have a college in Palau which introduces traditional craft work as well as other subjects. In the meantime, every local government in the Melanesians tries to solve some problems concerning environment, nuclear, and so on.

In Solomon Islands, however, deforestation has been occurred because of foreign capitals. Korea, Taiwan, Malaysia, the Philippines, and Indonesia have cut down a great number of trees that are then bought by Japanese. In order to avoid deforestation by out-

siders, they are educating the next generation to unite firmly in a traditional way when they own land.

Luke Suifasia has been selected as the first trainee from Solomon Islands.

Former-trainees who have returned to Papua New Guinea are all fine. Tony and Herupe lead people in improving their village. Lelu and Lannie are trying to expand stationary agriculture. Moreover, Lannie has begun to teach women in the village sewing that she learned in Japan.

Kenichi Kusachi
General Secretary

Without using agricultural chemicals, it takes much time and labor, such as weeding, picking out bucks, so the consumers help with this work. It was said that to build such a cooperated relationship, the farmers must be relied upon. The members were impressed by the attachment, confidence, pride, and pleasure of organic farming.

One of the major results was that the members could confidently reconsider the importance in engaging with agriculture.

*Sansho Teikei (Undo): Tie-up activity between producers and consumers

Information

JOIN US!

Staff needed: Article writing, Editing translating for English and other Asian languages, Proof Reaing, Illustrating.

"We are awaiting your response!"

For more details, call PHD. Tel:078-351-4892

夏は冒険の季節だ

草生塾が始まるぞ

みんな、元気か。突然だが、みんなは自分が毎日食べているものがどうやってできるか知っているか？米は昔から十八八の手間がかかるという。鳥肉や豚肉は最初から肉なのではない。野菜があんな姿をしているのはスーパーだけだぞ。

今の生活は大変便利だ。だがこんな便利になる前、昔の人はどんな生活をしてたか知っているか。今は、蛇口をひねれば水が出る。ボタン一つで御飯が炊ける。スイッチひねれば風呂が沸く。一体誰のおかげでこの生活が成り立っているのか。誰に感謝すればいいのか。わかる

か、みんな。

この夏10回目の草の根生活塾(草生塾=そうせいじゅく)が開かれる。丹波篠山の農村で、野菜や肉がスーパーに並ぶ前の姿を見てみないか。そして昔の日本と同じような生活をしているアジア・南太平洋の人達と話したり、遊んだりしてみないか。

水は川から汲んで、御飯はかまどで炊いて、風呂はマキで沸かすんだぞ。たいへんな作業だが、便利な生活にはない生きることの知恵があちこちにかくされているぞ。テレビもラジオもコンピュータ

ーゲームもない。でもみんなで協力しあって生活することはとても楽しいぞ。アジア・南太平洋の人達に教えてもらってエスニック料理も作るんだ。みんなで作った料理はとてもおいしいぞ。どうだ、いいだろう。

夏は冒険の季節だ。夏休みはそのチャンスだ。小僧ども、小娘ども、家を飛び出せ！。山や川や風がみんなを待っているぞ。(ボランティア 浅田大輔)

*くわしい案内はレター6ページのNEWSコーナーを見てください。

みんなで考えてみよう!

このパズルを解き a-g を並べると、ある言葉になります。その言葉は？
ヒント 51号のレターにのっています。

ご家族皆さんで考えてください。

(タテのかぎ)

1. みんな仲よくなり○○○をなくそう
2. 日本は円。アメリカは？
3. 歌舞伎などの演劇は。
4. フランス語で一品料理。
5. 研修生ルークさんの国。
8. 湿気が多いとはえてくる。
9. 神戸の地名。水族館がある。
11. 旅行にでかけ、家を○○にします。
13. ○○○を食らってノックアウト。
14. 研修生ラディアさんの島。
15. 木琴に似ているが？
17. 名字の別の呼び方。
19. 放課後みんながよく行く場所。
20. ○○がついてきた。
21. 漢字の読み方は音と○○。

(ヨコのかぎ)

1. ラディアさんの国。
6. 希望に満ちた明るい未来を表す色。
7. メカニズム(機械装置)の略。
9. 夏の果物。中は赤い。
10. 研修生トゥントゥンさんの国。
12. 怪盗。漫画では3世が有名。
15. 羊の肉は英語で？

PHDクロスワード

1	d	2		3	4		5	a
e				6				
7	8		9					
	10	11			12	13		
14				15				
16			17	c		18	19	
		20	b		21	g		f
22				23				

編集部より

今号から年2回ページを増やすことになりました。これまで以上に色々な情報を掲載していきたいと思っています。どしどしとP

HDレターに関してのご意見、疑問、アイデアなどをお寄せ下さい。や読者の方々と交流が進めば幸いです。これまで以上に楽しんで読めるレターを作成したいです。

編集部 カキG

